

# 説 明 資 料

(1) 「農業用水路の安全対策」の概要	・・・	資料1
(2) 農業用水路の安全対策の取組状況	・・・	資料2
・ソフト対策	・・・	資料2-1
・ハード対策・セミハード対策	・・・	資料2-2
・調査研究結果	・・・	資料2-3
(3) 令和4年度の死亡事故の状況	・・・	資料3
(4) 安全対策の課題と対応方針(案)	・・・	資料4

# 「農業用水路の安全対策」の概要

- PDCAサイクルに基づいて、事故防止対策の強化を図る。（安全対策ガイドライン38頁）
- 対策の効果や問題点を継続的に把握・検証し、必要に応じて対策の改善・充実を図る必要。

## Plan（計画）

- R4年度農業用水路の安全対策の概要 資料2

### ①ソフト対策

- ・ 広報啓発活動 など
- ・ 重点地域でワークショップを実施（20地区）

地域内の危険箇所の点検  
 危険箇所マップの作成

### ②ハード・セミハード対策

- ・ 転落防止柵
  - ・ 網ぶた
  - ・ ポールコーン
- } の設置

## Do（実行）

- ソフト対策 資料2-1

- ・ 春、秋、冬の「農業用水路転落防止事故防止強化期間」の実施
- ・ 市町村等の広報誌の活用、注意喚起チラシの配布
- ・ 事故防止標語・ポスター展の開催、HP等での情報発信 など
- ・ 老人クラブへ働きかけ、安全対策講習会を実施
- ・ 重点地域におけるワークショップの実施

過去に事故が発生した地域で「危険箇所マップ」作成するなど、意識啓発活動等を展開

- ハード・セミハード対策 資料2-2

- ・ 要望に応じた転落防止柵の設置
- ・ ワorkshopで検討されたセミハード対策

## Action（改善）

- 安全対策の課題と対応方針（案） 資料4



- 推進会議へ報告・意見聴取



R5年度の実施計画に反映

## Check（点検・評価）

- 事故発生箇所の現地調査 資料2-3

- ソフト・セミハード対策の  
効果的設置に向けた行動分析

- R4年度の死亡事故の状況 資料3

PDCA  
サイクル

R元年度

R2年度

R3年度

R4年度

## 富山県農業用水路事故防止対策推進会議

《毎年度末》◎実績・成果報告→評価・改善

★R元年12月策定

## 富山県農業用水路安全対策ガイドライン

ソフト対策

### ■普及啓発事業

- ・注意喚起(チラシ)
- ・広報(メディア活用)
- ・強化期間(春、秋)

継続的に実施

### ■普及啓発強化事業

- ・注意喚起(チラシ)
- ・広報(メディア活用)
- ・音声テープの作成・活用
- ・強化期間(春、秋、冬)

継続的に実施

### ■意識持続化事業

- ・注意喚起(チラシ)
- ・広報(メディア、音声テープの活用)
- ・強化期間(春、秋、冬)
- ⇒専用のぼり旗、ポスターによる周知強化

### ■調査研究委託(県立大学)

- ・事故傾向分析
- ・現地調査、アンケート

### ■調査研究委託(県立大学)

- ・効果的な安全対策
- ・セミハード対策の検証・分析

### ■調査研究委託(県立大学)

- ・死亡事故以外の調査
- ・発生要因の究明・検証

### ■調査研究委託(県立大学)

- ・散居形態における人の行動分析
- ・過去事故事例(ケガ)との比較分析

連携

### ■対策促進・人材育成事業(県土連)

- ・ファシリテーター研修
- ・ワークショップ支援

### ■対策促進支援事業(県土連)

- ・ワークショップ支援
- ・啓発動画・音声等作成

他地区へ横展開

### ■対策促進支援事業(県土連)

- ・ワークショップ事例集の作成・配布
- ・ワークショップ支援等

取組の促進

住民等へ周知

### ■ワークショップ(モデル事業)

7月28日:富山市熊野  
8月10日:南砺市本江

### ■ワークショップ 33地区

水路安全対策計画(点検マップ)

### ■ワークショップ 17地区(R2~3:50地区)

水路安全対策計画(点検マップ)

### ■重点地域ワークショップ事業

[ワークショップの開催]  
重点地域 20地区  
(事故発生地域等)

危険箇所マップ

安全対策マップ

次年度検討

セミハード対策

### ■安全施設クイック整備事業

継続

### ■安全施設クイック整備事業

継続

### ■安全施設クイック整備事業

ハード対策

### ■安全対策緊急整備事業

「定額」⇒「定率」

### ■団体営農村地域防災減災事業

定率

### ■団体営農村地域防災減災事業

主に改良区からの要望  
幹線水路の転落防止柵

■県単 防災福祉対策事業(安全施設整備型)

■県単 防災福祉対策事業(安全施設整備型)

## 広報・啓発活動

### ●農業用水路転落事故防止強化期間

春・・・4月20日～5月20日

【水田の代かき期で、農業用水路の水量が増える時期】

秋・・・8月20日～9月20日

【稲刈り前の草刈りなどで、農業用水路に近づく機会が多い時期】

冬・・・12月1日～12月31日

【降雪期に入り、農業用水路付近での除雪作業により危険性が増す時期】



JA支店での「冬の強化期間」における呼びかけ



直売所での「秋の強化期間」における呼びかけ



ホームセンターでの「冬の強化期間」における呼びかけ

### 【令和4年】

強化期間中を示すのぼり旗を作成し、人の集まる場所等に掲示し、危険に対する意識付けを強化

### 【主な掲示場所】

- ・ J A
- ・ 直売所
- ・ ホームセンター
- ・ 市町村
- ・ 農林振興センター
- ・ 土地改良区



「強化期間」用ののぼり旗

広報・啓発活動

●HP、SNSを活用した情報発信

（県のTVCM、SNSにおける周知）

**富山県 転落死亡事故の約9割が高齢者**

くわしくは **富山県 農業用水路転落防止** 検索

← ツイート

富山県 @pref\_toyama

【お知らせ】  
農業用水路では、毎年亡くなっています。「自分は大丈夫」の油断をまねきません。STOP！用水路事故！  
[pref.toyama.jp/1602/s](http://pref.toyama.jp/1602/s)

5,048回視聴

2022年09月01日 13:30

16 リツイート 1 引用ツイート 28 いいね

返信をツイート

← ツイート

富山県 @pref\_toyama

【注意喚起】  
冬は雪が積もって道路の境が分かりにくくなり、農業用水路のそばでは転落の危険性が増す時期です。慣れた道でも水路のそばでは安全確認を！  
「STOP！用水路事故！」

富山県 @pref\_toyama · 2

【お知らせ】  
農業用水路では、毎年多くの方が亡くなります。「自分は大丈夫」の油断が死亡事故につながります。STOP！用水路事故！

富山県

注意！

返信をツイート

← ツイート

富山県 @pref\_toyama

【注意喚起】  
⚠️ 農業用水路への転落に注意 ⚠️

冬は雪が積もって道路と農業用水路の境が分かりにくくなり、農業用水路のそばでは転落の危険性が増す時期です。

慣れた道、慣れた場所でも水路のそばでは安全確認を！

2022年01月26日 17:45

返信をツイート

## 広報・啓発活動

- HP、SNSを活用した情報発信

### （県のTVCM、SNSにおける周知）



防災危機管理センター1階の大型モニター



県民会館駐車場角の大型モニター

## 広報・啓発活動

### ●施設見学会や地域イベントの活用

#### ○「食の王国フェスタ」や「水土里ウォーク」において

農業用水路への転落事故を防止するため、9月にテレビで放送した広報用のCMを「どんな年代の方が」「どの時間帯に」見ていたのか。  
また、高齢者へ注意喚起するためには、「どの時間帯に流せば効果的なのか」をアンケートで調査

CMを見ていた時間帯は？

	朝	昼	夜	深夜
20～30代	3	1	3	0
40～50代	2	2	7	0
60代以上	4	1	8	0

効果的な放送時間帯は？

	朝	昼	夜	深夜
20～30代	12	3	6	0
40～50代	13	1	4	1
60代以上	7	3	7	0

#### ○食の王国フェスタ (10月29、30日)



※アンケートの回答率を向上させるため、田んぼの生き物を展示し、子ども連れの家族からも回答いただいた。

YouTubeで生配信されました。



## 広報・啓発活動

### ●施設見学会や地域イベントの活用

- 高齢者向けの安全対策講習会を開催  
 「転倒を引き起こす身体機能の低下」を自覚  
 してもらえるよう、臨床スポーツ医学の分野  
 における「転倒予防」について講習。

開催日	開催市町村	関係組織	参加人数
11月25日	砺波市	市老人クラブ連合会	115名
11月28日	射水市	市老人クラブ連合会	60名
12月20日	入善町	福寿会	23名

2月8日	富山管内	富山土地改良協議会
2月13日	砺波市	遺族会
2月25日	砺波市	神島西地区環境保全推進委員会
2月15日	射水市	七美地区老人クラブ

R5年度	砺波市	東野尻地区第3区老人会
------	-----	-------------



令和4年11月25日 砺波市



令和4年11月28日 射水市



令和4年12月20日 入善町



## 広報・啓発活動

### ●施設見学会や地域イベントの活用

- 多面的機能支払推進研修会において農業用水路事故の傾向として、
  - ・ 自宅周辺での発生数が多い
  - ・ 近接する地域内で事故が複数箇所発生などを紹介し、注意喚起を図った

また、県内の安全施設関連の企業が自社で開発した製品を紹介し、地域での対策に活用されるよう、PRを行った。



○多面的機能支払推進研修会  
(10月18日)



## 安全対策施設の展示



## 広報・啓発活動

令和5年1月16日 富山大学

### ●施設見学会や地域イベントの活用

#### ○富山大学教養教育総合科目の授業において

「富山の地域づくり」として、農業用水路での転落事故が発生する背景とその対策を説明し、学生の視点で広報・啓発の方法について、グループに分かれディスカッションを行った。

受講生の状況（出身地別）

出席者	38名	県内出身者	7名	県外出身者	30名	海外出身者	1名
-----	-----	-------	----	-------	-----	-------	----

#### 【講義を聞いての感想】

- ・事故がこんなに多いとは知らなかった。【驚いた】
- ・高齢者に危機感を持ってもらう。
- ・水深が浅くても死亡してしまことを初めて知った。
- ・高齢者と地域・若者とのコミュニケーションが大事
- ・子どもの事故が多いと思っていた。

（ほとんどの事故が高齢者だということに驚いた）

#### 【グループディスカッションで出された提案】

- ・高齢者の周りの人から危険防止を呼掛ける。
- ・水路の周りを点検するようなウォークイベントを開催する。
- ・防犯ブザーやセンサー（GPS）のような機器を持ってもらう。
- ・目立つ色のネットを水路の上に張れば気付くし、落ちてでも引っかかる。
- ・用水路事故防止の講習会に参加することを義務化する。
- ・スーパーや病院など人が多く集まる場所でポスターなどを貼って周知する。  
（スーパーのカゴにラミネートをかけたチラシを貼ってもらう）
- ・配置薬の箱にチラシを貼ったり、売薬さんにチラシを配ってもらう。



## 広報・啓発活動

### ●その他

○放送局キャスターによるラジオの「天気予報とお知らせ」として  
R4. 9月からR5. 1までの約4か月間番組の合間に呼びかけを行ってもらった。  
平日： 9時55分～10時、11時50分～12時、13時55分～14時  
土日：13時55分～14時  
上記のうちいずれかの時間におよそ10回 呼びかけられた。

○富山市内の小学校における親子活動（令和4年11月26日）の行事において  
児童のお父さん（農業土木職員）より、農業用水路への転落事故について説明をもらい、  
参加した親子に日頃から注意しておくことについて、知ってもらった。



# ワークショップ等を通じた安全点検や危険箇所マップづくり

## ○ワークショップのアウトプット



危険箇所マップの作成

### 地域住民に普及啓発



危険箇所マップを活用した児童クラブへの注意喚起・啓発活動



危険箇所マップを活用した自治会説明会で危険箇所の共有・周知

安全対策の実施

## ○実施地区におけるワークショップの様子



人体模型実証実験動画の視聴



危険箇所の点検把握



グループディスカッション



グループ代表者による意見発表

## 過去に転落事故が発生した地域における、重点地域ワークショップ

### ○重点地域におけるワークショップの実施

・モデル地区からの横展開を図ることとしているが、引き続き農業用水路での死亡事故が発生している。

・過去に発生した転落事故の検証を踏まえ、事故防止意識の定着を図るため、転落事故が発生した地域等を重点地域とし、ワークショップの実施。

#### 【実施内容】

危険箇所マップの作成及び啓発活動等（ソフト対策）を実施。

#### I. 危険箇所の安全点検

危険箇所の現状確認を実施

#### II. ワークショップによる「危険箇所マップ」等の作成

転落事故の発生しうる危険箇所の位置、内容等を記載した地図を作成

#### III. 啓発活動

マップを活用し地域内で周知の徹底等

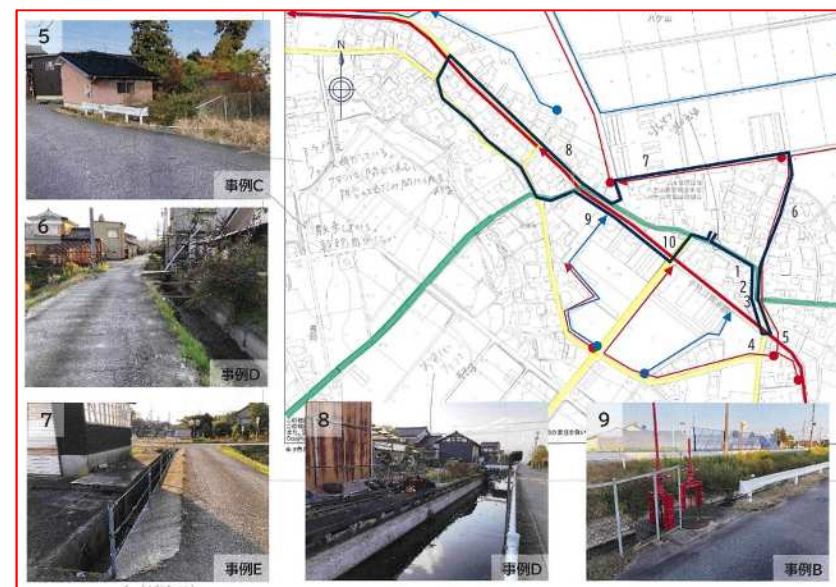
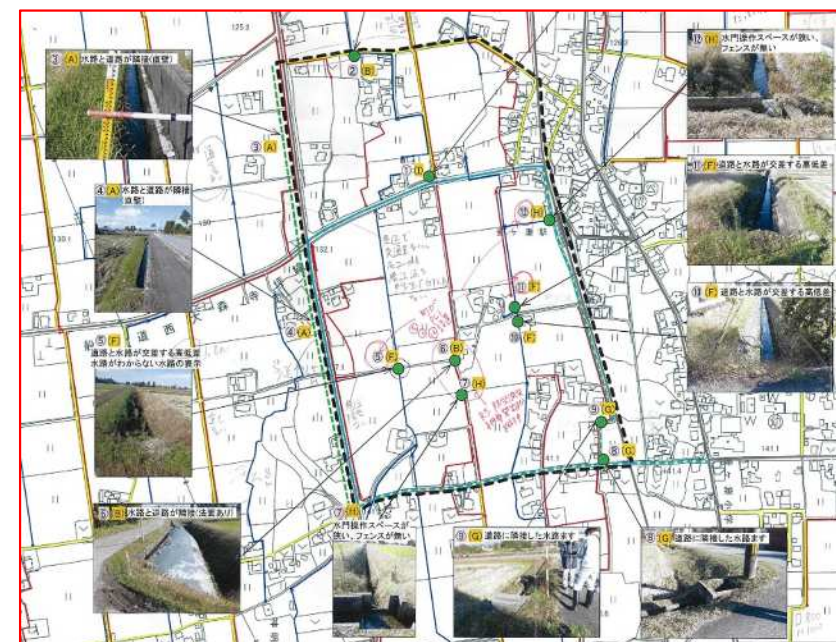
#### 【実施期間】

令和4年度から令和6年度[各年度:20地区]

#### R4年度ワークショップ開催地区一覧（20地区）

管内	市町村	地区	開催日	実施主体
新川	魚津市	天神野新地域	11月18日	魚津市
	滑川市	中野島町内会	2月予定	滑川市
	黒部市	吉田・飯沢町内会	10月17日	黒部市
		入善町	上野・道市地域	11月18日
富山	富山市	青木地域	11月25日	入善町
		月岡地域	11月16日	富山市月岡土地改良区
		田畠地域	11月13日	大庄土地改良区
		下友坂地域	11月13日	朝日土地改良区
		八ヶ山地域	12月3日	牛ヶ首用水土地改良区
	下大久保地域	11月22日	大久保用水土地改良区	
立山町	末三賀地域	11月20日	立山町土地改良区	
高岡	高岡市	立野地区	3月5日	高岡市
	小矢部市	和沢地域	12月11日	小矢部市
	射水市	布目地域	11月13日	射水市
砺波	砺波市	高儀新地域	8月30日	砺波市土地改良区
	南砺市	苗島地域	11月4日	庄川上流用水土地改良区
		天神地域	11月19日	南砺市土地改良区
		吉松地域	11月24日	南砺市土地改良区
		布袋三ヶ地域	11月29日	南砺市土地改良区
計		20地区		

### 重点地域における危険箇所マップ



## <対策のポイント>

- ① 概ね1m以上の幹線水路を中心に、国定額補助事業を活用して転落防止策を緊急的に整備
- ② 支線・末端水路を中心として、ワークショップを通じて作成した危険箇所マップ、安全対策マップ等に基づき、注意喚起等ソフト活動を展開するとともに、国定額補助事業、県単独事業等を活用して、ハード・セミハード対策を実施

## ハード対策の整備状況

### ■農業用水路安全対策緊急整備事業（国補助事業）

- 施設管理者主体（土地改良区）の安全点検パトロール等により、危険箇所へ**転落防止柵**を整備

→R4年度に施工する転落防止柵は **15路線 約5.3km**

### ■県単独防災福祉対策事業（安全施設整備型）

- 国補助事業に該当しない危険箇所を県単独事業により、**転落防止柵等**を整備

→R4年度に施工する転落防止柵は **15路線 約1.6km**

設置年度	R2	R3	R4	合計
設置延長(km)	15.8	20.2	6.9	42.9

## ハード対策(転落防止柵)の整備事例



## セミハード対策の整備状況

### ■県単独防災福祉対策事業（安全施設整備型）

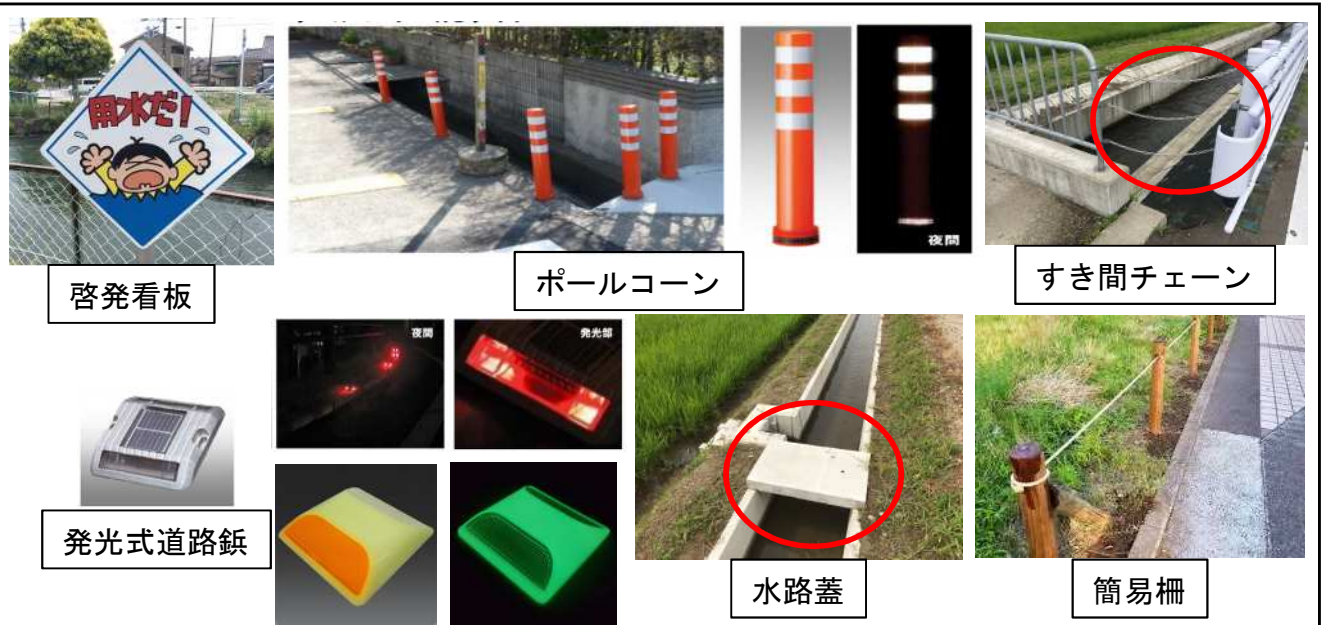
- 簡易な転落防止施設**を県単独事業で整備

→R4年度に施工する転落防止施設は **17地区**

### 《安全施設クイック整備事業 実施地区》

魚津市吉島	滑川市下大浦	滑川市本江
黒部市浦山	入善町椋山	朝日町殿
富山市山本	舟橋村東芦原	上市町北島
高岡市四日市	氷見市上泉	小矢部市浅地北部
小矢部市浅地南部	射水市鏡宮	射水市高木
砺波市祖泉	南砺市野尻古村	

## セミハード対策の整備事例



啓発看板

ポールコーン

すき間チェーン

発光式道路釘

水路蓋

簡易柵

＜農業用水路事故対策調査研究＞  
①過去4年間における事故の傾向分析

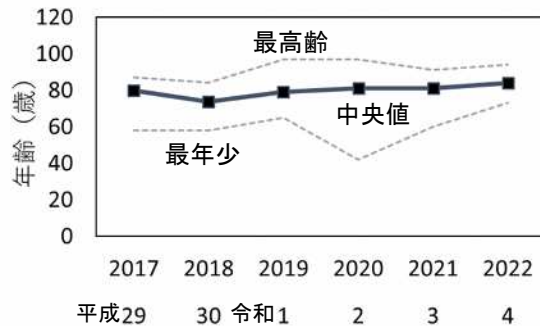
1. 類型別事故発生件数

事故類型	計	R4	R3	R2	R1
歩行移動中(小規模水路)	22	3	9	7	3
自転車事故	4	0	2	0	2
家庭内事故型	11	0	5	4	2
農作業・水路管理 (庭先・菜園の手入れ等を除く)	7	0	0	3	4
除雪中	3	0	2	1	0
不明・その他	17	5	4	6	2
計	64	8	22	21	13

令和4年度の死亡事故

- 農作業や除草に行く途中とみられる事故が2件, 自宅付近の小規模水路付近で転落したとみられる事故が1件, 転落時の状況が不明のものが5件
- 末端水路での発見は5件
- 8件とも高齢者(うち6件は75歳以上)

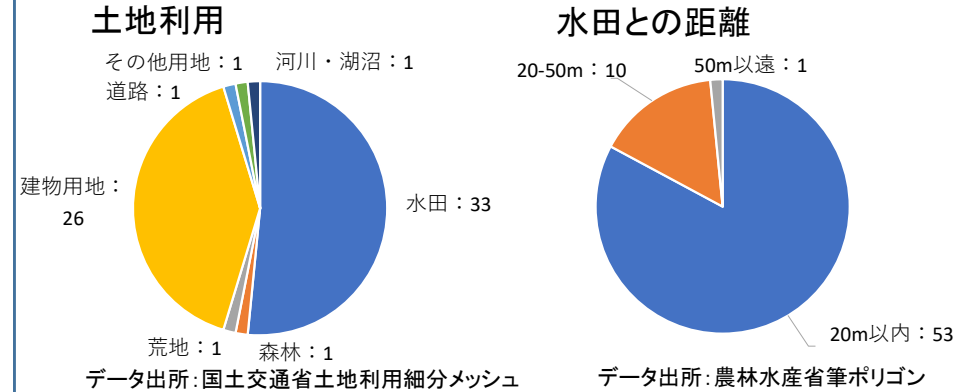
2. 死亡事故当事者年齢の推移(H29年度以降)



- ・ 自動車で転落(H30・23歳)を除く
- ・ R2最年少(43歳)については 地点・状況不明

- 死亡事故当事者は全体的に高齢化する傾向が見られる  
➡ より小規模な水路でも重大事故に至りやすくなる

3. 死亡事故発生地点周囲の地理的状況

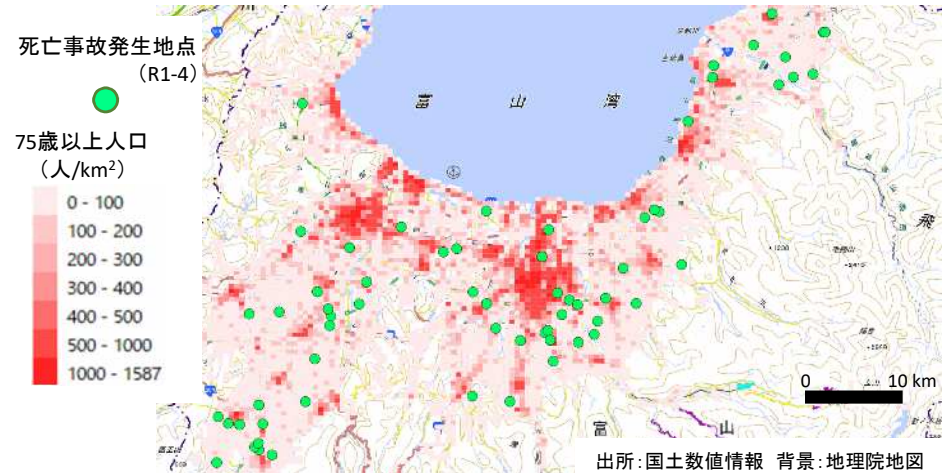


データ出所: 国土交通省土地利用細分メッシュ

データ出所: 農林水産省筆ポリゴン

- 散村のような水田地帯が最多
- 市街地・集落と水田が接する地点でも発生(建物用地に分類)
- 水田から離れた市街地内での発生は少ない(DID内では3件)  
➡ 人と水路の接触機会が多い地域で発生

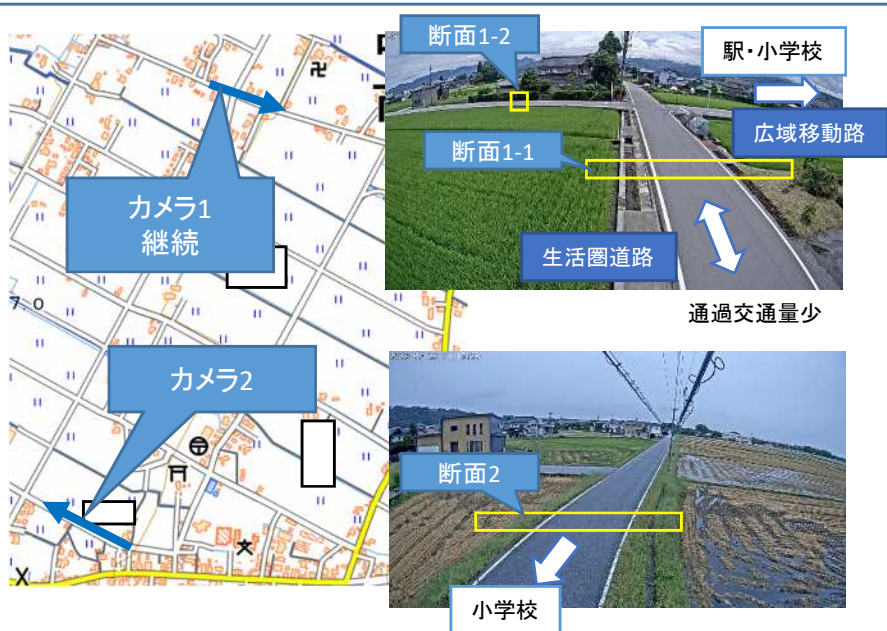
高齢者(75歳以上)人口分布と死亡事故発生地点



- 居住地域(着色)のうち水田率が5%を超える地域において:  
○ 1平方キロメートル当たりの75歳以上人口密度の中央値:55人/km<sup>2</sup>  
○ 同, 事故発生地点における中央値:93人/km<sup>2</sup>

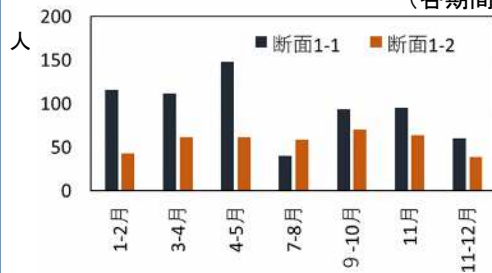
➡ 高齢者の増加に伴って事故発生の確率は増加

② ソフト・セミハード対策の費用対効果向上に向けた用水路周辺行動分析



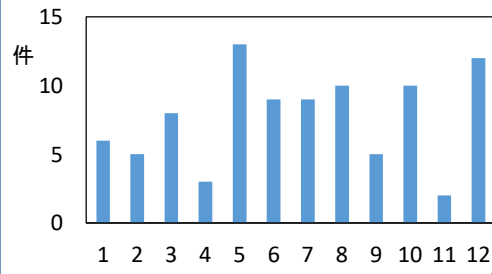
1. 歩行者数季節変動と転落死亡事故発生件数

(各期間ゴミ収集日以外の平日10日間の昼間)



- 生活圏道路の通行者は季節変動が大きい
- 4-5月に最大、7-8月最小
- 積雪期1-2月も生活圏では多くの歩行者

断面通過歩行者の季節変動 (各期10日6-16時)



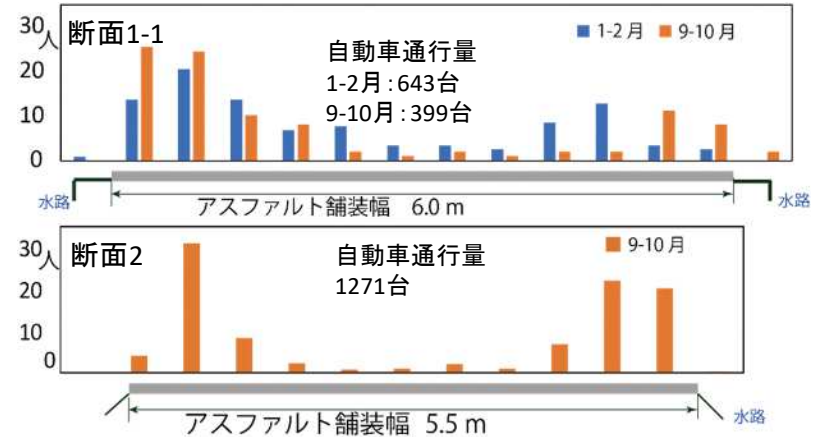
- 5月に最多、夏季に多い傾向、12月は2番目に多い
- 8月の10件のうち、4件が夜間
- 12月12件のうち、低体温症疑い1件、飲酒疑い3件

【比較】月別用水路転落死亡事故発生件数(H29-R4年度計)

2. 道路の交通状況・構造と歩行位置

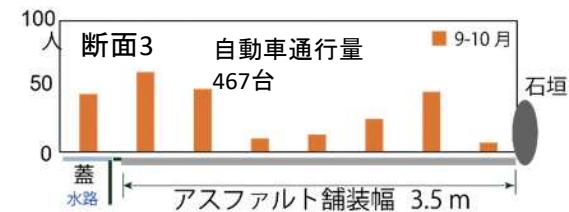
(各期間ゴミ収集日以外の平日10日間の昼間)

単純な道路断面



- 積雪期には歩行位置が全体的に道路中央に寄る(断面1)
- 交通量の多い道路では歩行位置が路肩に寄る(断面1と2の比較)
- 路肩の歩行位置や通行者数は左右で異なる(断面1および2)

複雑な構造を有する道路



- グレーチング蓋上と用水から0.5m程度離れたアスファルト上に多くの歩行者
- 小学生はグレーチング蓋の上を歩行、高齢者は蓋の横を歩行する傾向
- 石垣・生垣からは一定の距離



③ 分析結果に基づく対策案

事故は確率的に発生するということを基本前提とする

1. ソフト対策

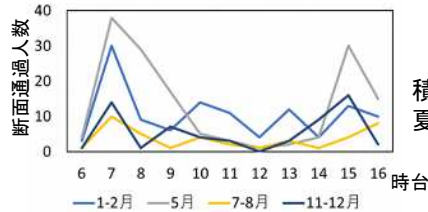
○ 季節的行動パターンに着目した対策

背景

- ・ 転落事故発生件数に季節性
- ・ 外出機会・時間にも季節性

具体的取組案

- ・ 季節特有の個別行動に対する注意喚起  
例) 春先の散歩, 夏の夜間外出, 年末行事, 除雪



積雪期は相対的に昼間の通行が多い  
夏季は夕方以降に通行が増加する傾向

○ 個々人の行動パターンに着目した対策

背景

- ・ 当事者の年齢層が高くなれば、あらゆる水路が「危険」となる
- ・ 個々人の路上歩行位置は訪問先等で決まっていることが多い
- ・ 高齢者の行動範囲・パターンはある程度固定化している

具体的取り組み案

- ・ 特に80・90歳代にとっては、ごく小規模な流れのない水路でも危険なことを周知
- ・ 家族や知人が本人の日常行動に気を配る
- ・ 水路の近くを歩く箇所があれば経路を変えてもらう  
➡ 経路変更が難しければ「人」に絞ったピンポイントセミハード対策



非常に小さな水路で死亡事故が発生した例(水路幅0.25m・88歳)



低体温症での死亡事故例(水なし・底面幅0.2m程度・83歳)

2. ハード・セミハード対策

○ 自動車交通特性・道路構造に着目した対策箇所絞り込み

背景

- ・ 路上歩行位置は自動車交通量や道路構造により規定される
- ・ 路肩に接近するほど踏み外しや転倒時の転落の危険性が高い

具体的な優先対策箇所(例)

- ・ 道幅が狭く自動車交通量が多い
- ・ 溝蓋が途切れている箇所  
特に道幅が狭く交通量が多いと「歩道」になりやすい
- ・ 水路の反対側に歩行者を心理的に遠ざける物がある  
例) 家屋(塀), ゴミ集積所など



歩行者は左側に偏っている  
ゴミ集積所を迂回するような  
動線も確認できる

○ 地域構造(拠点・土地利用)に着目した対策箇所絞り込み

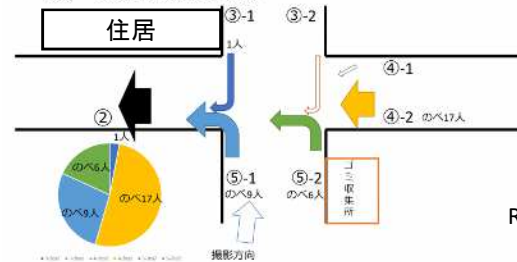
背景

- ・ 路上歩行位置(左右)は最終目的地や途中の交差点等にも影響される  
コミュニティセンター, 友人宅, 畑

具体的取り組み案

- ・ 高齢者世帯と拠点の経路把握
- ・ 個々人を対象としたソフト対策(上記)との組み合わせ

②への経路別内訳



R3年度資料再掲(一部加工)

## <令和4年度の農業用水路事故の傾向>

- 事故に遭った高齢者はほとんどが後期高齢者である。
- 家族が目を離した隙に一人で出かけ行方が分からなくなり、事故に遭っている。
- 事故の発生箇所が過去に発生した箇所付近に近接する地域で発生している。

### 令和4年度の事故発生状況

○令和4年度は1月31日現在で8件の死亡事故、そのうち高齢者は8件(100%)であった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
R4	0	4	0	0	2	0	0	0	1	1	-	-	8 (8)	0.8
R3	0	3	2	2	1	1	3	1	3	0	1	5	22 (21)	1.8
R2	0	2	0	5	2	0	2	0	5	0	1	0	21 (20)	1.8
R元	0	2	3	1	0	1	1	0	2	0	1	2	13 (13)	1.1
H30	1	1	2	0	2	2	1	0	0	0	1	2	12 (10)	1.0
H22~29 平均	1.9	2.1	1.3	1.8	2.5	1.3	1.0	1.8	1.8	1.8	1.6	1.4	20 (17)	1.7

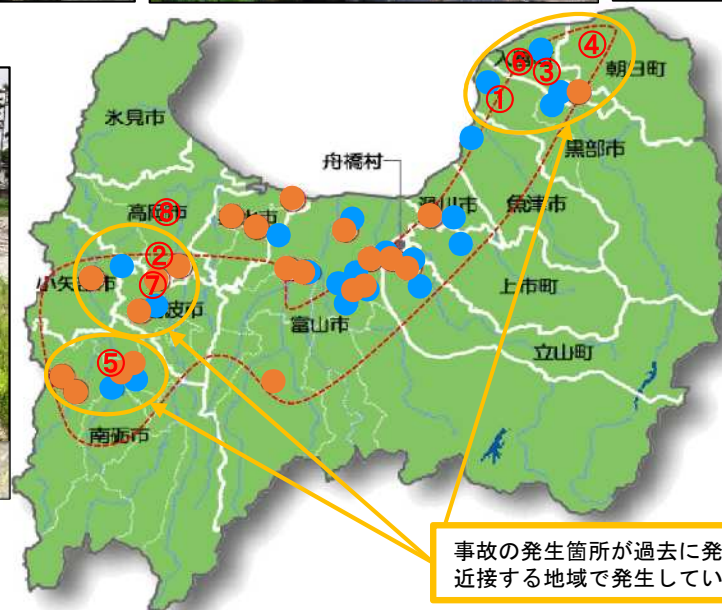
※合計欄の( )は、65歳以上の高齢者で内数

### 令和4年度の死亡事故の概要

①	令和4年5月2日 黒部市 91歳 女性 幅1.2m、高さ0.8m、水深0.03m 4月30日午前8時ごろから行方が分からなくなっていた、同市の女性が用水路で横を向いて倒れているのを、捜査中の消防団が発見した。司法解剖の結果水死と判明。
②	令和4年5月19日 高岡市 94歳 男性 幅0.4m、高さ0.4m、水深0.08m 高岡市の排水路で男性がうつ伏せで倒れているのを、介護福祉士の女性が発見し、病院に運ばれたが死亡が確認された。司法解剖の結果、目立った外傷は無く水死と判明。
③	令和4年5月19日 入善町 87歳 女性 幅0.85m、高さ0.55m、水深0.4m 入善町の用水路で女性がおおむけで沈んでいるのを捜査中の入善署員が発見し、その後死亡が確認された。司法解剖の結果、死因は溺死と判明。
④	令和4年5月26日 朝日町 73歳 男性 幅1.0m、高さ0.5m、水深0.2m 朝日町の排水路で24日午後8時半ごろから行方が分からなくなっていた、同町の男性がおおむけに倒れているのを捜査中の消防団が発見。外傷は無く死因は溺死と判明。
⑤	令和4年8月2日 南砺市 89歳 女性 幅0.5m、高さ0.5m、水深0.12m 南砺市の用水路で、女性が倒れているのを家族が発見し現場で死亡が確認された。死因は溺死と判明。
⑥	令和4年8月31日 入善町 75歳 女性 幅0.7m、高さ0.45m、水深0.23m 入善町の用水路で、31日朝から連絡取れなくなっていた、同町の女性がおおむけに沈んでいるのを入善署が発見。死因は水死と判明。
⑦	令和4年12月31日 砺波市 85歳 女性 幅0.2m、高さ0.15m、水深0.13m 砺波市の用水路で、同日午前10時頃から行方が分からなくなっていた、近くに住民女性がおおむけに倒れているのを親族が見つけた現場で死亡が確認された。死因は水死と判明。
⑧	令和5年1月20日 高岡市 74歳 男性 幅2.3m、高さ2.5m、水深0.3m 高岡市の排水路で、19日午前8時ごろから行方が分からなくなっていた同市の男性が横たわっているのを近くの住民が見つけた、現場で死亡が確認された。死因は水死と判明。

- 凡例
- ①~ 令和4年度事故発生箇所
  - 令和3年度事故発生箇所 (22件)
  - 令和2年度事故発生箇所 (21件)

### 令和4年度の死亡事故の発生箇所



事故の発生箇所が過去に発生した箇所付近に近接する地域で発生している。



◎今年度の安全対策の実施状況や事故の発生状況等を踏まえ、



1. 効果的なソフト対策と計画的なハード対策

○高齢者や介護者、及び児童の保護者など、幅広い世代の方への広報、ワークショップや講習会などを積極的に実施するとともに、転落防止柵やポールコーンなどのハード・セミハード対策を着実に進める。

2. 関係部局との連携

○全県的な取組み【県民運動】として展開できるよう関係組織との連携を強化。

項目	課題（改善点）	対応方針案（検討の方向性）
<b>（1）ソフト対策</b>		
①広報啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が犠牲となる転落死亡事故が後を絶たない。</li> <li>・高齢者の危険に対する認識としては、「自分は大丈夫」「慣れた場所だから」と考えられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が持つ危険に対する認識を改められるよう、安全対策講習会を幅広く展開し、意識改革を図る。</li> <li>・継続的な広報啓発活動（チラシ配布、メディアの活用、音声テープ等による呼びかけ等）を進めるとともに適時的確な広報媒体を選定し、より効果的な周知手法の検討を図る。</li> </ul>
②ワークショップ等を通じた安全点検や危険箇所マップづくりの普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップによる危険個所の再認識は、実施地区のみでの取り組みとなり、その他地域への展開も検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に転落事故が発生した地域において、ワークショップの実例を横展開する。</li> <li>・ワークショップによる合意形成手法を参考に、各種団体で行えるよう支援する。</li> </ul>
<b>（2）ハード・セミハード対策</b>		
①ハード（転落防止柵）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水路延長が長く直ぐにすべての対策を講じることは困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転落防止柵の整備が必要な箇所については、水路周辺の状態を考慮しながら、計画的に進めるとともに必要な予算を確保。</li> </ul>
②セミハード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップを通じた身近に潜む危険箇所の掘り起こし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップでの検討を踏まえたスピード感のあるセミハード対策の実施</li> </ul>
<b>（3）連携強化</b>		
①広報における連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者とその介護者や児童の保護者など多様な関係者に対して、農水部局が単独で広報啓発活動を行っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁内の関係課と情報共有を図り、各種会議や研修会へ積極的に参加し、連携した安全対策講習等を実施。</li> </ul>